

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2376400228		
法人名	有限会社 ネクストサプライ		
事業所名	グループホーム長篠の家 (1号館)		
所在地	愛知県新城市長篠字西野々42番地の1		
自己評価作成日	平成24年 8月 31日	評価結果市町村受理日	平成24年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2376400228-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2376400228-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成24年 9月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

健康面に対しては、月2回の提携病院の往診もあり、入居者が安心して生活できる配慮をしている。地元ボランティア団体による歌や踊り、健康体操をおこなっていたり、地域の方との交流を深めている。家族や知人の面会も多く、外出なども多い。また実習生の受入れ指導も積極的に行っている。職員の常勤比率を高めており、入居者・家族に安心していただける体制をとっている。地域の行事(防災訓練、しんしろ節句祭り等)への積極的な参加をしている。季節を感じられるよう行事や食事の提供に心がけ、特に外出の機会を増やして年2回、家族の協力を得ながら外食支援にも取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

運営推進会議の取り組みが素晴らしい  
 メンバー構成: 地域包括、区長、民生委員、家族、利用者、法人事務長、館長、ケアマネの8名で構成  
 出席率 : 8人のメンバー構成で年間6回開催延べ出席者48人中、欠席者3名  
 即ち出席率94%の高い出席率である。  
 会議内容: 殆どの出席者が発言する双方向の会議である。  
 議事録: 欠席者が見ても会議内容が理解できる議事録である。  
 議事録配布: 議事録は殆ど開催日に作成、市役所窓口へ報告後、受付印を捺印した議事録を出席者全員に配布

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念I:2376400228</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく生活が送れるよう、楽しみや張り合いを増やすよう心がけている。日々の生活の中で理念を話し合い入居者に対して実践している。理念の掲示をしている。	法人の理念を、「本人」、「ご家族」、「職員」、「地域」に対して展開し、その詳細内容を掲示している。利用者本人に対して、『その人らしく生活が送れるよう楽しみや張り合いを増す』をモットーとしている。	理念を詳細内容まで展開しており、周知は徹底されている。次のステップとして、理念の実現度を確認する為にも、ホーム又は個人の目標を設定して取り組むことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭り、地域防災訓練、JA祭り、しんしろ節句祭りの行事に参加している。地域ボランティア団体、小学生、高校生との交流を図っている。	地域の方々とは、散歩時の会話や、お祭り・JA祭り・防災訓練等の行事に参加して交流を図り、近隣の方より白菜等の野菜も頂いている。地域ボランティア、小学生・高校生の体験等も積極的に受け入れている。	ホームの持つ機能を活かし、地域の方々にも参加を呼び掛けた『研修会』を開く等、ホームより地域へ発信する機会を設け、地域で必要とされる役割を担って行く事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事等に積極的に参加し、認知症など介護が必要になった人の相談やサービス事業所など紹介している。また人材育成の一環として実習生の受け入れや職場体験を行って、運営推進会議にて情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において全て報告し、意見があれば更に職員で話し合い実行している。	参加者、開催回数等軽減要件は全てクリアし、出席者全員から発言のある双方向の会議である。年間でも、メンバー8人、開催回数6回、の述べ出席者48人中、欠席者3人の出席率94%の高出席率の会議である。	参加メンバーとして知見者(他のグループホームの管理者等)へ参加を呼びかけて欲しい。参加しているメンバーも、他のホームでの取組や情報は大変参考になるものと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 平成24年 9月25日	運営推進会議の議事録を提出した時に施設の実情を報告している。市の担当者からいろいろなアドバイスをいただき、改善するところは改善するよう心掛けている。また運営規定の変更や事業所更新も適時行っている。	会議には必ず地域包括が出席している。管理者は議事録内容を市担当者に説明し、受付印を受けた議事録を出席者に配布している。市担当者はホームの状況を良く理解しており、適宜アドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内教育研修(採用時、年2回のAA課程、朝礼)を実施し、徹底されている。	管理者・職員は身体拘束の弊害を充分理解してはいるが、ホームの前を国道が走っている為、利用者の安全を優先して玄関は施錠している。その中で、1日1回は開錠して玄関前で外気浴をする等、見守りをしながら自由に出入り出来る時間帯を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内教育研修(採用時、年2回のAA課程、朝礼)を実施し、徹底されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内教育を実施し、各職員のレベルアップが図られている。また社外の勉強会・研修などにも積極的に参加し自己啓発を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書に基づきキーパーソン(家族)に説明及び質疑応答し、納得していただいた上で契約している。利用料の変更も説明し同意を得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で入居者より意見や要望を聞いて満足していただけるよう対応している。家族の面会時、施設に対しての意見を聞くよう心掛けている。「長篠だより」で施設の運営状況を報告している。	家族の面会時やプランの更新時に、利用者の状況を説明し意向・要望を伺っている。ホーム全体の状況を伝える『長篠だより』や、利用者個々の状況を伝える『個人情報発信』を定期的に家族に届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回行い、それを通して各自の意見を聞き対応している。必要時にはリーダー会議を行い調整を図っている。	新管理者は、以前リーダーとして職員を指導していた事もあり、何でも相談にのれ、職員は全幅の信頼を寄せている。チーム会議開催回数を増やし、伝達研修のテーマで討論する等、職員の提案を具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の浪々環境を考慮した勤務形態をとっている。勤務状況を把握してそれを評価し、給与・賞与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じて本部、事業所内、外部研修(定期・不定期)に参加して人材育成を図っている。資格取得もサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・社協・病院などが主催する事業所会議や連絡会に出席して情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者前の居宅のケアマネージャからの情報や面談で本人聞いた要望をフェースシートに記載して、サービスに展開している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者前の居宅のケアマネージャからの情報や入居相談・契約時に家族から聞いた要望をフェースシートに記載して、サービスに展開している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居説明や契約時に本人に関する家族からの情報をフェースシート、アセスメントに記載してサービスを展開している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に買い物、掃除、洗濯干し・たたみ等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族へ本人の生活状況を報告し、家族から意見をいただいてサービスに活かしている。また家族との外出する場合も支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会を自由に行っている。地域内での外気浴、散歩、買い物、地域行事の参加を通して地域内の交流が図られている。	入所間もない方には、職場・近所の友人が訪れる。友人の来訪には、ゆっくり寛いだ時間を過ごせる雰囲気作りに努めている。地域で暮らす知人・友人に会う機会を増やす為、コンタック(道の駅)に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で共同作業(洗濯干し・たたみ等)やレクリエーションで関わるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した家族からの相談やお礼の電話をいただいたり、町で会った時に声をかける方もおられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活では各職員が各入居者からニーズを汲み上げて、可能な限りサービスに盛り込み支援している。	話せる方には1対1で話しかけ、縫い物・お手伝い等、本人のやりたい事を支援している。思いを表出できない方には反応から思いを汲み取り、「寂しい時は怒る」、「排便の時は機嫌が悪い」等の表情で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅のケアマネージャーから情報をいただいたり、入居前と入居時に本人・家族から情報収集している。また新たな事実がわかった時点で記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを大切に、日常生活では心身の状態を観ながら残存機能に応じて生活支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやアセスメントに本人・家族の意向を聞き取り、職員カンファレンスを実施して介護計画を展開している。	毎月モニタリングで介護計画を確認し、3ヶ月毎に職員間で担当者会議を開き、計画の見直しを行っている。家族アンケートの結果でも、『介護計画の説明・話し合い』の項目は、ほとんどの家族が満足されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録及びカンファレンス内容に基づき介護計画を作成している。入院され退院した場合には介護計画を再検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域内の病院受診は職員が付き添い対応している。地域外の病院受診は基本的に家族対応であるが、都合がつかない場合は職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生のボランティアや高校生の実習を含め積極的に受け入れている。また地域防災訓練、消防との避難訓練、地域の祭りに参加したり、公園や神社などへ散歩をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の往診が月2回あり、急な受診では連携して。個人のかかりつけ医については職員又は家族が付き添っている。	ほとんどの利用者はホーム提携医を利用し、月2回の往診・受診等情報を共有しながら、安心して適切な医療支援が行われている。従来からのかかりつけ医も、ホーム近くなので職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の月2回の往診時に看護師と連携して医師に状態を伝えている。体調変化時や緊急時も同様に看護師に相談して適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添った職員が傷病歴・薬・ADLを医療機関に伝えている。入院期間中には職員が面会をして状態を確認し、退院前には医療機関からの情報をもらい、準備をして不都合がないよう受け入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期の段階から本人・家族・医師と繰り返し話し合いを行い、その結果である方針に沿って支援している。	最近病院で亡くなった利用者を振り返り、「1時間おきの体位変換・一口でも食べて欲しいとの思いでのミキサー食での食事介助」、「ギリギリまで見てよかった」、「病院で知らない人の中にいるより、ここで見てよかった」の声を聞く事ができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき対応している。マニュアルは事務書に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で話し合いや地域の防災訓練に参加している。また消防署の指導のもと通報、避難、消火訓練を年4回実施している。自治会との協力体制も整っている。	夜間想定・地震対策等、テーマを決めて年4回の防災訓練を行っている。夜間の一人体制での避難訓練では、全員避難に15分要している。地域の防災訓練の際は、地域の方が迎えに来て避難先まで案内された。	運営推進会議で緊急時の協力の賛同は得てはいるものの、実際に協力ネットが機能するか否かを訓練の場で確認する事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護及び個人情報の守秘義務を守るよう就業規則やマニュアルで徹底されている。言葉かけも名前とし、入浴も一人ずつ行っている。	利用者に対し、人生の先輩としての尊敬の意を忘れず、丁寧な言葉かけを心がけている。さりげない声かけでトイレ誘導を行い、職員はトイレの外で待つ(介助の不要な場合)等、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各職員が利用者の希望を聞き取り、可能な限り対応している。また選択の幅を作り自己決定しやすくしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の運営ルールに基づき、可能な限りその人らしい暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重しその都度、特員が対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者のその日の心身の状況に応じて買い物、片付けなど一緒に行っている。年2回、嗜好調査を実施して評価の低いところは改善に努めている。	年2回利用者の嗜好調査を行い、意向を基にお寿司の夕食を企画したり、日々のデザートのお菓子を増やす等、調査の結果を日常に取り入れている。力量に合わせ、盛り付け・配膳・片付け等を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮しながら一人一人に合わせた食事量を提供している。水分摂取量を一人1.5リットルを目安にしている。そして入居者の活動を考慮して栄養・水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがい、毎食後にうがい歯磨き・義歯洗浄を促し、1日の終わりには義歯を洗浄して除菌している。また6月からは食前に口腔体操を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の身体状況や排泄パターンに合わせて支援している。夜間は定期的に声かけ誘導し、可能な限りトイレでの排泄を心掛けている。必要な方には失禁パンツを利用している。	排泄パターンを把握し、利用者個々に合った排泄の自立支援を行っている。当初はトイレに行く事を拒否していた利用者に、機嫌を損なわない様に上手に誘い、徐々に慣れてトイレで排泄するように改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜など繊維質が多い献立を作り、水分摂取、適度な運動で体を動かすようにしている。必要に応じ腹部マッサージ、ヨーグルト摂取、医師の処方した便秘薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能ですが、本人の意思を尊重し無理強いをせず、ゆったりと入浴できるような心がけている。	毎日の入浴を基本としている。浴室が広く、仲の良い2人に洗い場と浴室で一緒に話せる場を設けている。最初の人・最後の方は分かるので、入浴の順番に気遣いし、上がり湯を熱めシャワーにして快適にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズム、体調に合わせて休憩したり、安眠できるよう個人の快適な温度・湿度・明るさを調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従い、職員が支援したり、変化が観られた時には、その医療機関に相談や受診をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人が何らかの役割を持ち、共同生活をしている。またレクリエーションを行ったり、気晴らしのため定期的に外出している。また可能な限り本人が食べたいという物を購入している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出支援(買い物など)ができている。毎日の散歩・外気浴を行い、雨天であれば室内散歩・ストレッチなど実施している。家族との外出・外泊支援も行っている。年2回、入居者の要望を聞き、できる限り食べたい物を食べに行けるようにしている。	本年度のホームの目標に、外出支援の強化を掲げている。初詣・花見・新緑・コスモス・紅葉等、季節を楽しむ散歩を兼ねた外食に出かけている。ホームの周囲の散歩、近くの舗道の散歩、コンタックへの買い物、玄関前で外気浴等を日課としている。	家族アンケートでは厳しい評価を受けている項目である。『個人情報発信』で利用者個々の外出参加状況を伝え、家族に利用者の外出状況を理解させる工夫を望みたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは家族の理解の下、施設で預かっている。能力に応じて買い物時は小遣いを渡して支払うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り電話や手紙のやり取りができるよう支援している。また施設だよりを年2回発行したり、随時施設での様子を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食堂には季節感を意識した飾り付けをし、朝のラジオ体操後のレクリエーションなどで季節感のある歌や食べ物の話題をするよう心掛けている。	天井が高く開放感があるリビングで、利用者がコの字型に配置したソファに座って談笑している。テーブルを離れて、全員がゆったりくつろいで座れる場所がある。玄関前のベンチでは外気浴をしており、利用者の居場所の確保には十分な配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内、ソファ、食卓テーブル、玄関前の長イスを設置している。移動ベンチもあり居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、本人や家族の持参した物や家族からの写真や手紙を貼っている。家電の持ちこみも可能であるが、危険な物や高価な物は除いている。	小物や人形を吊ったり、花を飾ったり、自分の好きな物を身近に置いている。壁に持参の洋服を数枚掛け、毎日どれを着ようかと選んで楽しんでおり、備品のフックや台を上手に活用して自分好みの部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の心身状態を考慮して安全・安心・安楽を基本に自立した生活ができるよう工夫している。(段差がなく、ベッドの高さ調節、手摺、電動ベッド、トイレ、風呂表示、障害者用トイレ、扉は引き戸で軽いなど)		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2376400228		
法人名	有限会社 ネクストサプライ		
事業所名	グループホーム長篠の家 (2号館)		
所在地	愛知県新城市長篠字西野々42番地の1		
自己評価作成日	平成24年 8月30日	評価結果市町村受理日	平成24年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2376400228-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2376400228-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成24年 9月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

健康面に対しては、月2回の提携病院の往診もあり、入居者が安心して生活できる配慮をしている。地元ボランティア団体による歌や踊り、話し相手も実施してもらっている。また実習生の受入れ指導も積極的に行っている。地域の行事(防災訓練、しんしろ節句祭り等)への積極的な参加をしている。毎月、季節に合った行事と誕生会を企画、実施して食事の提供もしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念</b> 2376400228					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	穏やかにゆったりと、その人らしく生き生きと楽しみや張りを増やすことをモットーに心掛けている。ホームの会議と日々の生活の中で理念を話し合い、入居者に対して実践している。理念の掲示をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物の時、隣近所の方々との会話やお祭り、地域防災訓練、JA祭り、しんしろ節句祭り等の行事に参加したり、地域ボランティア団体・実習の高校生との交流を図る。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事等に積極的に参加しており、認知症等介護が必要となった人の相談やサービス事業所などを紹介している。また人材育成の一環として実習生を受け入れて職場体験を行っている。運営推進会議にて情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において全て報告や話し合いが行われ、こうしたら良いとかの意見があれば、職員会議でも話し合い、良いところは実行している。防災対策としてLEDランタンを準備した。		
5	(4)	○市町村との連携 平成24年 9月25日	運営推進会議の議事録を提出して当施設の実状を報告している。その時に担当者からいろいろアドバイスを頂き、改善できるところは実施している。また、実地指導や運営規定の変更など適時行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内教育研修(採用時、年2回のAA課程、朝礼)を実施し、徹底されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内教育研修(採用時、年2回のAA課程、朝礼)を実施し、徹底されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内教育を実施し、各職員のレベルアップが図られている。また社外の勉強会・研修などにも積極的に参加し自己啓発を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書に基づきキーパーソン(家族)に説明及び質疑応答して納得していただいた上で契約している。利用料変更も説明して同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置や日常生活の中で各職員が入居者や家族の方より意見や要望を聞いて、満足が得られるように心がけている。また家族には長篠だよりや写真などで生活の様子を伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回行い、意見・提案・不都合なことなどを聞いて、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の労働環境や条件を考慮した勤務形態をとっている。個人の勤務状況及び実績を把握して評価を行い、給与や賞与でそれ反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じて本部、事業所内、外部研修(定期・不定期)に参加して人材育成を図っている。資格取得もサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・社協・病院などが主催する事業所会議や連絡会に出席して情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者前の居宅のケアマネージャからの情報や面談で本人聞いた要望をフェースシートに記載して、サービスに展開している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者前の居宅のケアマネージャからの情報や入居相談・契約時に家族から聞いた要望をフェースシートに記載して、サービスに展開している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居説明や契約時に本人に関する家族からの情報をフェースシート、アセスメントに記載してサービスを展開している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に買い物、掃除、洗濯干し・たたみ等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族へ本人の生活状況を報告し、家族から意見をいただいてサービスに活かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会が自由にできている。地域内での外気浴、散歩、買い物、地域行事を通じて知育交流が図られている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で共同作業(洗濯干し・たたみ等)やレクリエーションで関わるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した家族から相談やお礼の電話をいただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族から意向を聞き取りサービス計画に展開しており、入居後も本人のニーズを汲み上げ、職員で検討してできる限りサービスに盛り込んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅のケアマネージャーから情報をいただいたり、入居前と入居時に本人・家族から情報収集している。また新たな事実がわかった時点で記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを大切に、日常生活では心身の状態を観ながら、現存能力に応じて生活を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやアセスメントに本人・家族の意向を聞き取り、職員カンファレンスを実施して介護計画を展開している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録及びカンファレンス内容に基づき介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域内の病院受診は職員が付き添い対応している。地域外の病院受診は基本的に家族対応であるが、都合がつかない場合は職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生のボランティアや高校生の実習を含め積極的に受け入れている。また地域防災訓練、消防との避難訓練、地域の祭りに参加したり、公園や神社などへ散歩をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の往診が月2回あり、急な受診では連携して。個人のかかりつけ医については職員又は家族が付き添っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の月2回の往診時に看護師と連携して医師に状態を伝えている。体調変化時や緊急時も同様に看護師に相談して適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添った職員が傷病歴・薬・ADLを医療機関に伝えている。入院期間中には職員が面会をして状態を確認し、退院前には医療機関からの情報をもらい、準備をして不都合がないよう受け入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期の段階から本人・家族・医師と繰り返し話し合いを行い、その結果である方針に沿って支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき対応している。マニュアルは事務書に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で話し合いや地域の防災訓練に参加している。また消防署の指導のもと通報、避難、消火訓練を年4回実施している。自治会との協力体制も整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護及び個人情報の守秘義務を守るよう就業規則やマニュアルで徹底されている。言葉かけも名前とし、入浴も一人ずつ行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各職員が利用者の希望を聞き取り、可能な限り対応している。また選択の幅を作り自己決定しやすくしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の運営ルールに基づき可能な限り、その人のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重した衣類を着用している。また日常ではその都度、職員が対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者のその日の心身の状況に応じて、買い物・調理・盛り付け・配膳・片付けを一緒に行っている。年2回の嗜好調査を実施して評価の低いところは改善に努めている。また外食して好きなものを食べてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮しながら一人一人に合わせた食事量を提供している。水分摂取量を一人1.5リットルを目安にしている。そして入居者の活動を考慮して栄養・水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがい、毎食後にうがいや歯磨き・義歯洗浄を促し、1日の終わりには義歯を洗浄して除菌している。また食前に口腔体操を実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の身体状況や排泄パターンに合わせて支援している。例えばポータブルトイレが必要な人、失禁パンツ対応の人などそれぞれに対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜など繊維質が多い献立を作り、水分摂取、適度な運動で体を動かすようにしている。必要に応じ腹部マッサージ、ヨーグルト摂取、医師の処方した便秘薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能ですが、本人の意思を尊重し無理強いをせず、ゆったりと入浴できるよう心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズム、体調に合わせて休憩したり、安眠できるよう個人の快適な温度・湿度・明るさを調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれ入居者が服薬している薬名・作用・用量を表にして職員全体が理解している。主治医の指示に従い、職員が服薬の介助をしている。状態に変化が観られた時には受診や相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何かしらできる人には役割を持って生活をしている。またレクリエーションや外出(外気浴、散歩など)では、可能な限り食べたいものを購入している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、外出支援をしている。毎日の散歩や外気浴を実施している。また地域行事のしんしろ節句祭り、JA祭りなどにも参加している。外食も年2回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは家族の理解の下、施設で預かっている。能力に応じて買い物時は小遣いを渡して支払うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り電話や手紙のやり取りができるよう支援している。また施設だよりを年2回発行したり、随時施設での様子を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食堂には季節感を意識した飾り付けをしている。共用部の温度や湿度にも気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内のソファ、食卓のテーブル、玄関前の長イスを設置しており、移動式ベンチもあり、入居者同士で話したり、独りなれる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の嗜好に基づいて居室を自由に使用できる。ただし危険物や高価な物の持ちこみはできない。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の心身状態を考慮して安全・安心・安楽を基本に自立した生活ができるよう工夫している。(段差がなく、ベッドの高さ調節、手摺、障害者用トイレなど)		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		外出へのニーズは定着しつつあるも、できる限り増やしていきたい。	個別での対応も含め、利用者ひとりひとりの満足度を高める。	1. 外食の機会は、春と秋の2回とする。 2. 各種行事への積極的参加と家族への協力、訪問のお願いをする。	12ヶ月
2		ケアのバラツキの改善	より良いケアを実践するために質の向上が必要。	1. 社内研修100%参加(2回/年) 2. 外部研修、セミナーへの積極的参加。 3. チーム単位で勉強会を開く。(1回/月)	12ヶ月
3		イロ別への情報発信不足から、行事や日常的な活動などを理解されにくい。	来設の機会を増やしていただき親睦をはかる。	個人情報の発信などで、予定など知らせたり、日常の様子など、報告する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。